

日本講談協会 会長

神田

くれない

紅

まむろ川講談会

創作講談

「真室川音頭の女 近岡ナカ工物語」

古典講談

「伊達家の鬼夫婦」

創作講談

「鮭延秀綱公外伝
信道の花輪の恋物語」



三代目 松林伯知

日時

令和7年

8月30日(土)

17:00開場/17:30開演

会場

真室川町中央公民館大ホール

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町233-1

◇入場整理券 入場は無料ですが、下記の場所で事前配布する入場整理券が必要です。

真室川町役場 ☎0233-62-2050 真室川町中央公民館 ☎0233-62-2305

安楽城・釜淵・及位の各総合施設 まむろ川温泉「梅里苑」☎0233-62-2373

◇主 催/真室川町 ◇お問い合わせ/真室川町企画課 ☎0233-62-2050

「あいさつ」

役場庁舎の落成を機に、令和三年度に初開催した講演会も、このたびの公演で五回目を迎えます。これまでの公演を振り返りますと、「郷土の英傑 鮭延越前守秀綱公一代記」、「真室川音頭の女 近岡ナカエ物語」と、いずれも町民になじみ深い人物を題材にご公演いただき、ご来場の皆様に江戸時代から人々を魅了してきた伝統話芸を存分に体感していただく機会となりました。ご公演いただきました神田紅師匠、また、これまでのすべての公演で脚本を書き上げていただきました当町出身の黒坂和弥氏に、心よりお礼申し上げます。

今回も「神田紅 まむろ川講演会」を通じ、より真室川町を知っていただき、講演の世界に浸っていただけますと幸いです。

真室川町長 新田 隆治

神田紅プロフィール



福岡県出身。修猷館高校卒業、早稲田大学商学部中退後、文学座付属演劇研究所を経て女優の道を歩き始めるが、昭和54年講演師・二代目神田山陽の語り口と講演の魅力にとりつかれ門下生となり神田紅を名乗る。

平成元年真打昇進・本牧亭にて昇進披露興行。その特異なキャラクターを生かした「芝居講談」という新しいジャンルを開拓、明るく楽しく分かりやすい芸風で、古典から現代ものまで幅広い作品を得意とする。講演のほかにも、女優、映画評論家、エッセイスト、レポーターとしても活躍。

平成14年 紅一門を旗揚げし、現在弟子は5人。講演の普及のため講演教室「紅塾」で東京、福岡合わせて100余名の生徒を熱心に指導している。

平成13年 全日空機内寄席のパースナリティー。

平成22年 日本講談協会会長。

平成28年 日本講談協会会長再任。

平成29年 台東区「スターの字型」顕彰。

著書に「紅恋源氏物語」、「語って紅伝」、「女の独り立ち」、「紅流」など。

受賞歴

平成27年 福岡市民文化活動功労賞

令和5年 福岡県文化賞

三代目 松林伯知プロフィール



茨城県出身。東京女子大学文学部史学科卒業後、落語・演芸誌の編集者として働きながら講演教室「紅塾」に通うようになる。

平成21年 神田紅門下となり、神田真紅を名乗る。

平成25年 ニツ目昇進。古典をこなす一方で、歴史好きを活かした幕末から昭和の人物伝、文化史に加え、アニメ、ゲーム、昭和歌謡、映画などを題材にした新作講演も手がける。

令和6年 真打昇進。「三代目松林伯知」を襲名。新宿末廣亭を皮切りに、真室川町でも真打昇進襲名披露興行を行った。

NHK「日曜バラエティ」出演。webラジオ「ファミコン名人への道」出演中。

◇◇真室川音頭の由来◇◇

戦前に宮城県女川漁港で北海道の「ナット節」が漁師の間で良く歌われていました。そこへ出稼ぎに行った真室川町出身の近岡ナカエさんは、ナット節を習い覚え歌詞をざれ唄で創作。加藤駒吉さんが安久土橋の上流に作った三階建ての料亭「山水」で歌ったのが「真室川音頭」の始まりと言われています。昭和の初めに隆盛を誇った真室川鉱山で働く人々に盛んに歌われました。

昭和26年にタイヘイレコードから、後にビクターレコードの専属歌手となった伊藤かづ子さん(金山町出身)の歌声で初めてレコード化され、全国に民謡「真室川音頭」が知られるようになります。翌年に町は、広く歌詞を募集し、数十点の応募の中から選び抜かれたものを正調「真室川音頭」としました。昭和29年にブギウギの流行に乗り、真室川音頭も「真室川ブギ」として歌われ、多くの方に親しまれる歌になりました。現在でも日本を代表する民謡の一つに数えられています。



演 目

◇ 神田 紅

● 開口一番「講演やってみまショー」
「伊達家の鬼夫婦」より

◇ 黒坂和弥

● 「講演の魅力語る」

講演の面白さや魅力を、創作講演原作者の黒坂和弥氏に語っていただきます。

◇ 神田 紅

● 古典講談「伊達家の鬼夫婦」

仙台の伊達政宗公の家臣で井伊直人という人は、五百石取りの中級武士で剣術指南役という肩書を持っていましたが、賭け事に夢中になって修行を怠るようになってしまします。奥様のお貞さんがこれを叱咤激励していく物語。

1963年公開の映画「影を斬る」(東映では、直人を市川雷蔵、貞を嵯峨三智子が演じました。また、浪曲では、「女大学」というタイトルで女子の教訓話として伝わっています。

お仲間入り

◇ 松林 伯知

● 創作講談「鮭延秀綱公外伝 信道と花輪の恋物語」

真室川の鮭延城主・鮭延秀綱公の家臣に鳥海勘兵衛尉信道という若者が居りました。あろうことか大殿・最上義光公の女房(側室)花輪に恋をしてしまします。怒った義光公は、秀綱立ち合いの元に詮議。若い二人の恋の行方は?最後は、意外な結末へ。

◇ 神田 紅

● 創作講談

「真室川音頭の女 近岡ナカエ物語」